

DJ-CH20/27 特定小電力トランシーバーには、普段の使用には余り必要が無くても環境や特定のニーズによってカスタマイズできると便利な項目を拡張セットモードに持たせております。通常の設定項目にしなければならないほどには頻繁に使われない上、意味が分かってお使い頂かないと電池を早く消費したり、「故障かな？」と思うような動作をしたりする可能性があるのです、これらは下記のボタン操作にてセットモードの拡張をおこなった後に設定画面に現れるようになっており、敢えて取扱い説明書には記載しておりません。

これら拡張メニューは設定変更後に再びメニュー表示を隠すことと、完全初期化（通常のセットモード、チャンネル設定なども含めた全てを工場出荷状態に戻すリセット）が可能です。

[拡張後に使えるセットモード項目と、その動作]

1. スケルチレベル「Sq」

設定値 1～5 （初期値 3）

FM 電波特有の、通話が無いときに聞こえるザーというホワイトノイズを消す「スケルチレベル」の調整。工場設定で標準的なレベルに調整してありますが、ノイズが強い環境などで、通話していない時でもスケルチが開きカサカサと音が出るような場合にレベルを上げると静かな待ち受けが可能になりますが、弱い受信信号も消してしまうため通話距離が短くなるように感じられることがあります。逆にノイズが低い環境では、レベルを低めに設定することで弱めの信号でも受信しやすくなる場合があります。レベルをゼロにすると、常にザーというノイズが聞こえるようになります。

2. キーロック設定に入るまでのボタンを押す時間「Lt」

設定値 1～3 秒 （初期値 2 秒）

通常は指定のボタンを 2 秒押すとキーロックが設定できますが、このタイミングを 1～3 秒の間で変更できます。

3. バッテリーセーブ「bS」

設定値 ON/OFF （初期値 ON）

電池消費を最小にするバッテリーセーブ機能は、通話の始めの一部が途切れる原因の一つになる場合があります。これを少しでも軽減するためにここでバッテリーセーブ機能を解除できますが、電池の減りが早くなるのでご注意ください。

4. 電池電圧表示「*. **」

何かを変えられる項目ではありません。拡張後このメニューに合わせると、お使いの電池の電圧を表示するので電池残量チェックとしてお使いになれます。テスターのような精度ではありませんのでおおよその目安とお考えください。

5. マイクゲイン調整「mG」

設定値 1～8 （初期値 4）

マイクから口元までの距離や、使う人の地声の大きさ、アクセサリーに付属するマイクの感度などによって無線機に入る声量は異なります。このため、音が小さい（話す声が小さい＝レベルを大きくする）、音が歪む（声大きい＝レベルを小さくする）等の場合に調整できるようになっています。

6. デュアルオペレーション動作再開時間設定「dt」

設定値 1～5 秒 （初期値 5 秒）

デュアルオペレーション機能動作中、通話が終了してから交互受信が再開するまでの時間を変更することができます。

7. チャンネル表示切り替え「CH」 ・ ・ ・ 単信 20 チャンネルのみ

設定値 AL/no （初期値 AL）

特小トランシーバーのチャンネル表示方法は、メーカーによって当社も基本採用するL(レジャー)/b(ビジネス)を分別明示するものと、連続で20chとして表示する2つの方式があります。

AL(ビジネス・レジャー別表示)：L01～L09, b01～b11

no(連続チャンネル表示)：01～20

※ 01～11 が b01～b11, 12～20 が L01～L09 に相当します。

===上記の設定内容を変更する必要があるときは、下記の操作を行ってください。

[セットモード拡張の方法]

1. キーロックする。(2種類キーロックのうち、どちらの方法でもかまいません)
2. 【GROUP】キーを5回連続で押す。4秒以内に5回押さないと有効になりません。
→キー操作が有効であれば「ピピッ」とビープ音が鳴り、キーロックが解除されます。
3. 次にセットモードに入ると拡張メニューが追加されています。

- ・ 拡張メニューを隠すには、上記1～3の操作を繰り返します。変更した設定値は保存されます。
- ・ 取扱説明書に記載の簡易リセットでは、拡張セットモードで設定した値は初期化されません。通常のセットモード内容とチャンネル表示だけが初期値に戻ります

※拡張設定まで含めて、全てを工場出荷状態まで初期化するには一度電源を切り、VOL【▲】、【FUNC】、CH【▲】3つのキーを同時に押しながら電源を入れます。表示部が全点灯したら指を放すと、初期化されて自動的に電源が切れます。

以上

デュアルオペレーションモード

メイン/サブの2つのチャンネルを1秒ごとに交互に受信し、そのどちらとも通信することができるモードです。あらかじめサブ側をメモリー登録しておく必要があります。

1. サブ側をメモリー登録する

サブ側に設定する内容(チャンネル、トーン番号など)表示中に【GROUP】キーを約2秒押します。

→「b writ」と表示され、サブ側にメモリー登録されます。

2. メイン側を設定する

メイン側に設定する内容(チャンネル、トーン番号など)を合わせます。

3. 電源を切る

4. デュアルオペレーションモードにする

CH【▼】キーを押しながら電源を入れます。

→「dUAL」と表示され、メイン側を「A」、サブ側を「b」として交互受信がスタートします。
信号を受信すると交互受信が停止し通話することができます。

注) メイン側/サブ側が同じチャンネルの場合、「E」表示が点滅し交互受信はスタートしません。

5. 送信する

【PTT】キー一度押しでメイン側、二度押しでサブ側を送信します。

→通話が終了し約5秒経過で交互受信を再開します。

6. デュアルオペレーションモードを終了する

電源を入れ直します。

メモ) 電源を入れ直してもデュアルオペレーションモードで起動させるにはキーロックを設定しておきます。

リモコンモード . . . DJ-CH27 のみ

中継器の設定（チャンネル、トーン番号など）を遠隔操作で変更することができます。
中継器 DJ-P101R、DJ-P111R、DJ-P112R に対応しています。

1. リモコンモードにする

CH【▲】キーを押しながら電源を入れます。
→「rmCon」と表示されたあと「中継」が点滅します。

2. 転送する内容を設定する

①チャンネル設定

CH【▲/▼】キーを押してチャンネルを設定します。

②グループトーク設定

【GROUP】キーを押します。
→グループ番号が点灯します。

③グループ番号を合わせる

【FUNC】キーを押しながら、CH【▲/▼】キーを押します。
グループ番号は「01～50」までと「tH」が選択できます。

メモ ・中継器にトーンスルー機能を設定する場合には、グループ「tH」を設定します。
トーンスルー機能とは、同じチャンネルに設定している複数のグループが、別々のグループ番号を使用して1台の中継器を共有することができる機能です。
本機能で利用できるグループ番号は、「32～38番」「48～50番」の10通りです。
詳しくは中継器の取扱説明書をご覧ください。
・チャンネルやグループ番号は中継器と子機で同じに合わせます。

④その他の設定

必要に応じて、セットモードで自動接続手順、ハングアップタイマー、アラーム機能を設定します。

●自動接続手順「At」

設定値 ON/OFF（初期値 ON）

中継器の設定を OFF にした場合、子機側の設定は「OFF」または「ON2」としてください。

●ハングアップタイマー「HUP」

設定値 0秒/0.5秒/1秒/2秒（初期値 0秒）

設定した時間だけ中継動作を継続します。

●アラーム機能「AL」

設定値 ON/OFF（初期値 OFF）

ON に設定すると中継動作の終了を音でお知らせします。

3. 転送する

【PTT】キーを約2秒押します。

→「ピピッ」音が鳴り、中継器への転送がスタートします。
転送中は「SEnd」が表示されます。

4. 中継器の電源を入れる

速やかに中継器にACアダプターを接続します。(中継器の取扱説明書をご覧ください。)

→数秒後、転送が完了すると「〇〇」が表示され、本機から「プルル」音が鳴ります。

メモ 転送完了後、中継器は自動的に再起動します。再起動後20秒間は初期化がおこなわれ、その後中継器として使用できます。

5. 本機の電源を入れ直す

中継通信モードに戻り、中継器を介して通信することができます。

以上